



1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022

MOMAW <http://www.momaw.jp>

開 館 5 0 周 年 記 念

Exhibiting the Museum:
Sustainability of MOMAW

美術館を展示する
和歌山県立近代美術館の
サステナビリティ

2020年
12月1日[火]—12月20日[日]

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>



開館 50 周年記念

美術館を展示する 和歌山県立近代美術館のサステナビリティ

2020 年 12 月 1 日 (火) ~ 12 月 20 日 (日)

美術館や博物館は、長く時間を積み重ねることを前提としています。「コレクションの 50 年」展で紹介する「収集」活動に加え、作品をより良い状態で次の世代に引き継ぐ「保存」のほか、それらを支える「調査研究」は、活動が蓄積されることによって意味を成します。「展示」や「展覧会」は、より多くの人に美術や美術作品の価値を伝え、また社会に多様な視点や議論を生み出す場としての役割を担っていますが、それはつまり講演会やワークショップなどの特別な機会でなくとも、展覧会自体が「教育普及」的側面を持っているということです。こうした場が常に地域にあることが、誰しにも開かれた学びの場を保証することにつながっています。

ではどのようにして美術館はその活動を続けていけるのでしょうか。もちろん運営という面では財政的課題がありますが、コロナ禍によって極端な集客を目指せなくなったいま、都会や地方の隔てなく、多くの美術館が活動のあり方を探っています。当館もまた例外ではありません。しかしすでに 50 年という活動を続けてきたなかにはヒントがあるはず。地域社会とのつながりに目を向けながら美術館活動を継続すること、そして当館がこの地にこれからも根を張っていくことを「サステナビリティ (持続可能性)」と捉え、これまでの活動とこれからの課題を検討します。

開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 2階展示室
会期	2020年12月1日(火)～12月20日(日)
開館時間	9時30分～17時 [入場は16時30分まで]
休館日	月曜日
観覧料	一般 350 (270) 円、大学生 240 (180) 円 () 内は 20 名以上の団体料金 *高校生以下、65 歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料 「和歌山県立近代美術館 コレクションの 50 年」のチケットにより観覧可能 (当日のみ)

展覧会構成

はじめに ミュージアムとサステナビリティ

昨今、耳にするようになった「サステナビリティ (持続可能性)」という言葉。美術館とはどのように関わるのでしょうか。日本の博物館法をはじめ、世界における博物館の位置づけとしての ICOM (国際博物館会議) の定義など、美術館とはどのような存在なのかを紹介します。

1. 和歌山県立近代美術館の 50 年 + α

1963 年に開館した和歌山県立近代美術館の前身としての和歌山県立美術館、1970 年に県民文化会館 1 階に開館した和歌山県立近代美術館 (旧館)、そして 1994 年に現在の地に開館してからの和歌山県立近代美術館 (新館)。それぞれの時代にあわせて変化しながらも、一貫した活動を続けてきました。展覧会の歴史やコレクションのあゆみ、刊行物などを中心に展示します。

2. 和歌山県立近代美術館という箱

たくさんの方がともに美術を楽しみ、また大切な作品を守るための美術館は、「箱」としての機能を持っています。特に現在の建物は黒川紀章の設計により、地域のランドマーク的存在にもなっています。この建物に込められた期待と役割について、作品保存の観点も交えながら紹介します。

3. あつめてのこす

美術館の仕事の主要な軸として、調査研究と収集活動があります。和歌山ゆかりの作家たちを掘り起こし、顕彰してきた活動について、収集方針との関連からご紹介します。また作品を後世に残すためにも必要となる多様な資料の現状を記録・管理する方法についてもご覧いただけます。



1. 和歌山城内に建てられた、和歌山県立美術館外観



2. 近代美術館は、県民文化会館の 1 階に開館



3. 開館を伝える『美術館だより』第 59 号 (1970 年 11 月 1 日発行)



4. 旧館での所蔵作品展風景 (1986 年)



4. 託されるコレクション

和歌山県立近代美術館は、これまで多くの方から作品のご寄贈をいただきてきました。佐伯祐三のまとまったコレクションや、田中恭吉や石垣栄太郎ら、ここにしか残らない作家像を語る貴重な資料はもちろんのこと、現存作家との強い結びつきによって作品を寄贈してくださった支援者グループや、現代美術コレクターからの1000点を超える一括寄贈など、当館ならではのさまざまな寄贈のかたちを紹介します。



5. 黒川紀章設計
和歌山県立近代美術館・博物館
外構・配置図（1993年）▶

5. 見せてのこす 展覧会とサステナビリティ

展覧会を開催することは、地域の歴史を伝え、美術作品と美術館に対する関心を広げるためにも大切です。同じ作家の展覧会を、繰り返して開催することも、研究と資料を引き継ぐことにつながっています。作品を展示する実際の作業とあわせて、展覧会の裏側をご覧ください。



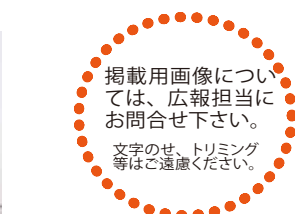
6. 黒川紀章設計 和歌山県立近代美術館・博物館 模型写真（1993年）



7. 和歌山県立近代美術館（新館）外観

6. 支えるしくみをつくる

美術館を支えているのは、中で働いている職員だけではありません。地域の人たちにさまざまなかたちで関わっていただくことで、美術館はこの地に根を張って活動を続けていくことができます。展覧会にさまざまなかたちで関わる学校教員や大学生、ボランティアやNPOなど館内外の人たちの活動と、美術館そのものへの間口を広げる方法として続けてきたスタンプラリーなど、幅広い人々との関わりをお伝えします。



◀8. 小学生対象の鑑賞会
「こども美術館部」の様子（2020年）

7. これまでとこれから

50年という時間を積み重ねてこられた和歌山県立近代美術館ですが、この先の50年につないでいくためには何が必要でしょうか。建物としての美術館を守っていくことはもちろんのこと、多くの人の記憶と経験のなかにのこり続ける方法を、地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。



9. 6年目に入った消しゴムハンコのスタンプラリー



10. 2階展示室照明工事の様子（2020年）

関連事業

*新型コロナウイルス感染症の感染の拡大状況によっては中止となる場合があります。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

●担当学芸員によるフロアレクチャー（展示解説）

【日時】12月5日（土）、6日（日）各回14時～
*2階展示室にて、申込不要、要観覧券

●こども美術館部（小学生対象の作品鑑賞会）

【日時】12月5日（土）、6日（日）各回11時～、定員6名
*ウェブサイトにて要申込み（11月20日9時30分より申込受付開始、小学生は無料、展示室に同伴される保護者は要観覧券）

●たまごせんせいとわくわくアートツアー（和歌山大学美術館部の学生による鑑賞ガイド）

【日時】12月19日（土）13時30分および15時～ 各回45分程度 *申込み不要、要観覧券、2階展示室にて

【同時開催】

開館50周年記念
「和歌山県立近代美術館 コレクションの50年」
【会期】9月19日（土）～12月20日（日）
【会場】1階展示室

【おとなり博物館の展覧会】

屏風の美—収蔵品の名品から—
【会期】12月5日（土）～2021年1月24日（日）

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎、青木加苗、宮本久宣
広報担当：和佐

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

TEL 073-436-8690（代表） FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>